

平成26年（2014年）12月17日～18日  
冬型の気圧配置による大雪  
(名古屋で23cmの記録的な大雪)

---

名古屋地方気象台

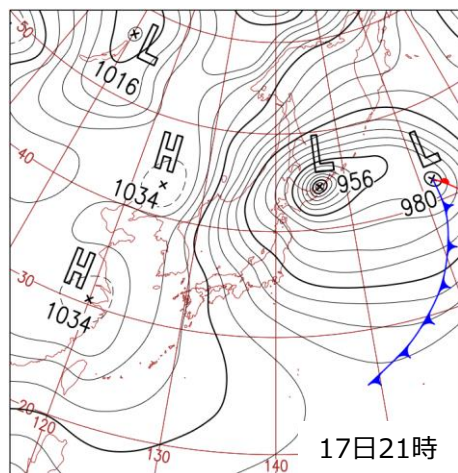
## 名古屋で23cmの記録的な大雪

2014年12月17日から18日にかけて強い冬型の気圧配置が続き、名古屋で最深積雪23cmを観測するなど、愛知県西部を中心に大雪となった。

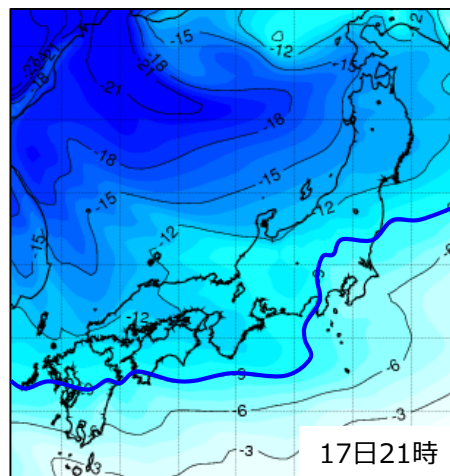
名古屋で積雪が20cm以上となったのは、**2005年12月19日以来9年ぶりであった。**

### 【概要】

本州南岸を低気圧が急速に発達しながら北東に進み、17日9時には根室付近で中心気圧948hPaまで発達した。一方大陸からは高気圧が張り出し、日本付近は17日から18日にかけて強い冬型の気圧配置が続いた。東海地方の上空約1500メートルには、氷点下9度以下の強い寒気が流れ込み、日本海では雪雲が北西から南東に筋状に並び、強い北西の季節風により山の風上側で積乱雲が発達した。

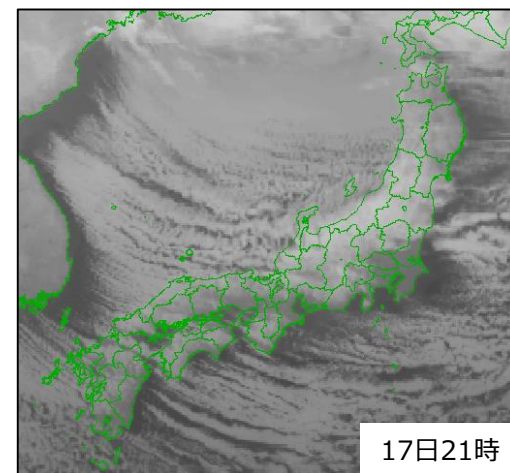


地上天気図



-20 -10 0 10 20℃

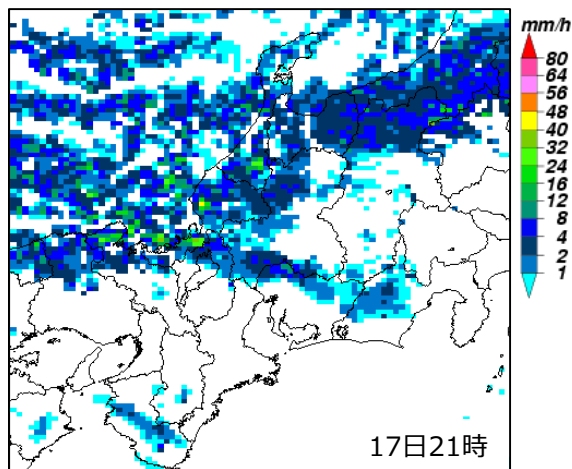
上空約1500mの気温の状況  
(青線は-9℃線)



衛星画像  
(ひまわり7号赤外面像)

## 【雪の状況】

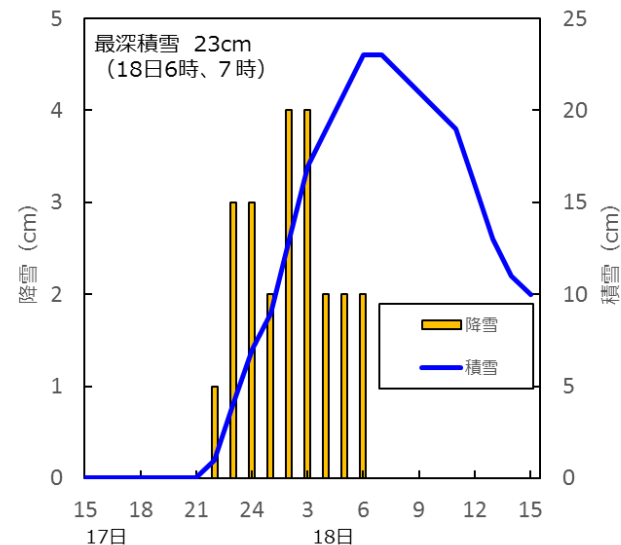
東海地方では17日から18日にかけて、山地を中心に大雪となった。また、平野部にも若狭湾付近を通して雪雲が次々と流れ込み、17日夜から18日昼前にかけて名古屋で最深積雪23cm（18日7時）、蟹江と一宮でも18cmを観測するなど、愛知県西部を中心に大雪となった。名古屋での23cmの積雪は、月最深積雪としては1980年の統計開始以来第5位の記録であり、20cm以上の積雪となったのは2005年12月19日の23cm以来で9年ぶりとなった。この大雪により、交通機関の運休や停電などが発生した。



レーダーエコー合成図



17日~18日最深積雪 (cm)



降雪・積雪時系列図  
(観測点：名古屋)